

## 水路擁壁の目地詰めで漏水を防止

二つのチームに分かれて作業を進めていく。作業中に、自然に持ち場、役割が決まっていくので効率上がる。

地区の配水路は冬のこの時期は水位が下がったままです。この時期には水路の状況が良く分かります。特にコンクリート擁壁の接続部分は大きく開いた箇所もあります。

接合部分は本来弾力性のあるものを入れてあつたはずですが、長い年月と

膨大な水量で押し流されてしまったところがあります。田んぼに水が当たると節にはどこから漏水しているか分かりませんが、水が多くてその時には修理ができません。数年前にも、何か所か漏水修理を実施しましたが、その修理も時間とともに効果が失われていま

す。  
2月11日、水路の目地詰め修理作業を行いました。バックアップ材として

### パイプラインの計測点検

榎野川本流からの揚水ポンプから東に延びるパイプライン（ヒューム管）は毎年高さの変化がないかオートレベル機を使用して測定しています。

総延長は180メートルです。毎回同じ個所に検尺を当てて約20か所を測定します。もしも、路盤や基礎部分に問題があれば、パイプの高さに異変があります。

今年度の測定でも、異常は認められませんでした。今年もしっかり活躍してくれるでしょう。

ひも状のウレタンを押し込んでいき、その上からシリコンシーラントを打ち込んでいく作業です。

シリコンシーラントは紫外線にも強く水を通さないのですが、何年も経過するとコンクリート部分との接合が緩んでしまい外れてしまうものもありました。作業の中で、そうしたものは撤去し新たに打ち込みなおしました。

今回の修理の効果は、今年の夏にならないと確認できませんが、従前より漏水の激しかった箇所など、今後も注意深く見守っていくとと考えています。



ミリ単位の測定ができるオートレベルを使用

# 落水路の畔部の除草清掃

農業用水路の雑草処理は最も厳しい作業です。雑草は畔部分の流出防止という大切な役目がありますから、これを見んな枯らしてしまうようなことはできません。

冬のこの時期には雑草の活動も穏やかですが、この時期に作物の害になる害虫もここで春を待っている状態です。そのお休み中の害虫の一扫をする



開始の時刻が遅かったために夕闇が迫る中での作業となった

ために「火入れ」（害虫駆除のための雑草焼却処分）を計画し、市の農林課に火入れ作業の申請を行いました。

2月13日の予定で、準備してきましたが、前日からの激しい雨で雑草はびしょ濡れ。「火入れ」は諦めることになりました。

やむなく、不要な雑草を手作業で処理することにしました。概ねの雑草は

枯れた状態です。これを刈り払い機で作業をしようとする、切れずに回転刃に巻き付いてしまい、作業ができなくなりま

す。巻き付いた枯れ草を取り除く作業は、刈り払い機の事故が多い危険な作業です。エンジンを停止させ、安全を確保したうえで、作業するのが正しいのですが、エンジンをアイドリング状態で、作業をしてしまいます。

せめて回転刃の部分を丈夫な靴底で押さえつけて回転刃の動きを完全に止めて

からやるようにしたいですね。

火入れを予定していたので午後からの作業にしています。夕闇が迫る中の作業となってしまいました。

この作業によって、水田の畔ぬり作業の効率が上がると言われています。畔塗り機で作業の際に雑草が混入すると強度が上がらないのです。

また景観的にもきれいになりましたし、春以降の雑草管理にも大いに有効な作業となるはず。雑草の管理は一年を通じて行う必要があります。この寒さの中でも青々と茂った草は少なくありません。その生命力は凄いです。

## 長寿命化事業

### 1号排水路の改修

長寿命化事業では施設の更新など、機能の向上に有効な工事を行ってきました。昨年度は大森農道の水路の改修を予定していましたが、農道本体の面に大きな破損があることが分かり、予定を変更してその修理を実施することになりました。

当初の計画とは異なる工事となったので、今年度は本来の1号排水路（通称横土手の下を西に流れ揚水ポンプ小屋を回り込む水路）の改修工事とは別

に大森農道隣接水路の改修を予算の範囲内で実施することにしました。

1号排水路は、一部水路の底の部分が加工されています。水流の関係で手当てをしたものと思われませんが、水路の底部分にもう一段水路がある形となり、泥上げ作業などがやりづらいと苦情が上がっているところ。現在、改修方法などを検討しているところ。

## 葛原猪平のお話し

2月20日、KDDI維新ホールで日本の冷凍産業の生みの親とも言われる葛原猪平のお話しがありました。

葛原家は宇佐八幡宮からご神体のお守り役としてこの地に来られたようです。明治30年代に米国に留学、様々な経験の後に食料の冷凍と輸送に取り組み、成果を上げます。経営には行き詰まり、これらの事業を手放します。それが現在の日本の冷凍食品の基礎となったのです。

北海道の森町には今も稼働している冷凍工場があり、そこには葛原の偉業をたたえる石碑があります。また気仙沼市には葛原猪平の銅像もあるそうです。

葛原は満州で大規模な果樹園経営を取り組むなど多彩な活躍をされました。北海道では「葛原猪平伝」という講談も語られています。